

## 改訂 いしかわ学びの指針12か条【<sup>プラス</sup>学びの12か条<sup>+</sup>】

### 活用力を高める授業づくり

- 1 物事を多様な観点から考察する力の育成
  - ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
  - ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする
- 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成
  - ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
  - ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する
- 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成
  - ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
  - ・思考の過程が分かる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

### 学力・学習を支える基盤づくり

- 4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成
  - ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
  - ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする
- 5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成
  - ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
  - ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする
- 6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視
  - ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
  - ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする
- 7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進
  - ・ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
  - ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める
- 8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着
  - ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
  - ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する
- 9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進
  - ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
  - ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

### 指導改善を進める体制づくり

- 10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進
  - ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
  - ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る
- 11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立
  - ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
  - ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】
- 12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進
  - ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
  - ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める